

片平地区社会福祉協議会

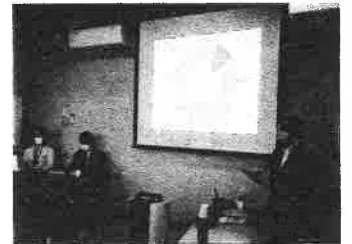
ふれあい片平

発行 令和 5 年 3 月

◆全体研修会◆ 講演「コロナ禍で考える“支えあい”の地域づくり」



令和5年3月9日(木) 片平市民センターを会場に、講師として地域支えあい推進センター主幹の橋本泰典さんをお招きして、2011年から被災した方々の生活支援を手始めに、その後さまざまな市町村の支援に携わってきた豊富な経験と具体例をあげて、コロナ禍だからこそ考えなければならない「“支えあい”の地域づくり」についてお話をして頂きました。



今年は、東日本大震災から干支が一回りした12年目にあたります。震災直後から国内のみならず海外から寄せられた多くの支援は、大切なものを失って打ちひしがれた人々に希望や夢の種をまき、各地で見られた人を思い遣る気持ちは小さな絆からやがて大きな絆となって、復興の後押しをしてきたことは言うまでもありません。そこに2019年末に降ってわいたコロナ禍！初期のウイルスは毒性が強く簡単に人の命を奪うのみならず、こつこつと築きあげてきた地域の絆やふれあいをも奪う恐ろしい「災害」となりました。多くの活動やイベントが中止となる中で、福祉委員の皆様と様々な工夫やアイデアを駆使してコロナ禍と闘ってきましたが、自粛ムードの中ですべてを中止することは安易な考えだったことを学びました。「集める」は自粛しても「集まる」は継続しなければ、本来の地域づくりは成り立ちません。

理想的な地域づくりを一本の木に例えるならば、この小さな「集まり」は木の根っこ部分です。小さな「集まり」が増えることによって幹となる地域の活動が活性化し、やがて枝葉になる部分＝公共の制度やサービス利用へとつながって、より良いまちづくりへと発展すると言う考え方です。実際、コロナ禍中でも飲食を伴わない「映画観賞会」や「健康体操」、野外での「四季の花植え」に集まって、顔の見える付き合いを継続した地区もありました。ここ片平は地区ごとに環境や事情も異なるため簡単にまねることはできませんが、互いの顔が見える付き合いで「つながり」を継続したこと、そこから生まれてくる小さな支えあいが安心・安全な暮らしをはぐくんでゆくことを続けてきたことは、大いに学ぶ点であると感じました。

長かったコロナ禍もようやく出口が見えそうな今、コロナによってズタズタにされた地域の「絆」をコツコツと紡ぐことから始めて、更に小さな「集まり」を開拓してみませんか？この研修会で紹介された様々な形の小さな「集まり」は、この片平地区でも実践できるように思います。片平にはきっと、お料理や味付けの達人、編み物や洋裁の得意な方、庭木の剪定や日曜大工の技をこなす方など、小さな集まりの「核」となりうるお年寄りや人材が埋もれているかもしれません。

《片平丁小学校の建て替え工事について》 2023年は、創立150周年の片平丁小学校

校舎の老朽化と建物の強度が新しい耐震基準に適合しないために、早急な建て替えが検討されていた小学校ですが、いよいよ本年夏から本格的に工事に着手することになりました。現在の校舎で授業を続けながら 南側校庭部分に校舎を新築、竣工後旧校舎から引っ越しを行なった後旧校舎を解体・整地して校庭となる予定です。工事中に心配になるのは、「指定避難所」です。しかし、避難所に活用されている体育館は現在そのまま残る予定ですので、万が一災害が発生し避難指示等が発令された場合には従来通り「体育館」に避難してください。

各福祉班の活動紹介

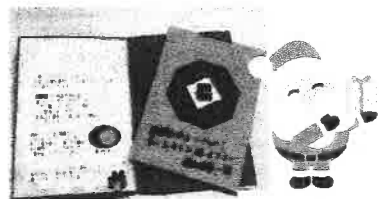
3年を超えるコロナ禍中、地域のため奮闘された委員の方々のご苦勞に感謝すると共にその様子をご紹介します。

《北目町福祉班》 「配食訪問♪」

町内の集会所としていた二十三夜堂の建て替えが終了しましたが、納骨堂の隣のくろぎスペースが狭く福祉班で集まるには不適切と考え、同委員所有のアパートの空室をお借りし、仮の拠点として活動を続けてきました。10月18日と2月24日に、地区の70歳以上の一人暮らしの方、90歳以上の方:36名に配食訪問を行い、お弁当をお届けしました。久しぶりの訪問に皆さん喜んでくださり、その元気な様子に福祉委員一同安堵いたしました。



《米ヶ袋福祉班》 「訪問による見守り活動&プレゼント」



「お茶っこ会」がなかなか再開できない中、地区の活動は訪問による見守りが中心になりました。70歳以上の全てのお年寄り(389世帯)に従来の感染予防グッズ等の他に「特殊詐欺」や「高齢者の事故防止」などに関する注意喚起のリーフレットも添え、戸別訪問にてお届けして地区の皆様の様子伺いをしました。昨年クリスマスには、80歳以上の一人暮らしの方:47名に手作りのクリスマスカードとささやかなプレゼントを添えて、お弁当をお届けしました。

《霊屋下福祉班》 「四季の花植え、冬バージョン」

11月9日(水) 地区恒例の「四季の花植え」のひとつ、「冬の花植え」を25名の皆さんで行いました。屋外でのこのサロンは、コロナ禍の中でも唯一休まず毎年おこなってきました。穴蔵神社、第一・第二集会所の3カ所に分かれて、密にならないよう心掛け、色合いやレイアウトを考慮しながら手際よく植えていきました。満足のゆく出来栄えに心地よい達成感を感じ、久々のおしゃべりとともに和やかなふれあいのひと時をすごしました。



《花壇大手町福祉班》 「めざせ生涯健康脳！」脳トレ

新型コロナとの戦いも早4年目に突入する今年、名称も“新型”から“2019”に変更とか？収束を願って止まない我が班唯一のお楽しみ行事 喫茶室「よつば」も閉店続き…苦肉の策の手作り絵手紙「コロナ禍お見舞い状」も時とともに飽きられてしまい徐々に発行も減る一方。起死回生！とばかりに認知症予防対策として“めざせ生涯健康脳”川村隆太教授の脳トレを「秋バージョンお見舞い状」と共に配布しました所 200部が飛ぶように配布完了し大好評を得ました♪目下、喫茶室「よつば」開店に向けて思案中です。

《大広会福祉班》 「配食訪問が貴重なひと時♪」

サロン活動自粛が継続したため、今年も訪問による見守りが中心となりました。75歳以上のお年寄り対象に毎年5回実施している配食訪問は、皆様の様子が伺える大変貴重な時間であり訪問先でのちょっとしたおしゃべりも閉じこもり気味のお年寄りが心待ちにしているひと時です。12月にはクリスマスカードにマグカップカバー、消毒液の3点セットを60名の方々にお届けして、大変喜んでいただきました。



《柳町福祉班》 「らくらくリンパマッサージ♪」



令和4年11月20日(日)柳町集会所にて、今年度2回目のお茶っこ会を開催しました。今回は、簡単にできる“リンパマッサージ”を健康体操講師の那波由美子さんに指導して頂き、寒さに負けない免疫力のアップと血行促進を目指して皆さん汗を流しながら楽しいひと時を過ごしました。椅子に掛けながらでもできるエクササイズは何より♪とのお声もいただきました。参加者16名(委員8名)